

# ロシア訪問団団長コメント



国際教養大学 理事長・学長 中嶋 嶺雄 (極東国立総合大学にて)

## 日本留学へ潜在性秘める極東ロシア

— 極東地域の印象は？  
 今回、ロシアを視察して感じたことは、日本と極東ロシアは距離的に非常に近いということと、感覚的には、台湾や香港へ行くよりも近い感じがしました。ハバロフスクへは、1時間半ぐらいで着いてしまいます。

— 距離的なものも含めて極東

地域からの日本留学を考えると、潜在的に大きな可能性を秘めていると思います。

— 説明会などでのロシア人の様子は？

日本語学習熱が非常に高いと思えました。ロシアの人たちは日本のビジネスや文化に興味があり、日本に学ぼうという意識を強く感じました。

— 極東視察での収穫は？

今度、国際教養大学は極東国立総合大学と協定を結ぶことになりました。

— 最大の問題は、奨学金があるかどうかでしょう。それが留学フェアで一番聞かれまして、今まで日本は、ロシアへ顔を向いていませんでした。

— 反対にロシアの対日感情は、非常に良好です。日本にはそれまでの認識を改めて、もう少し奨学金を与えるシステムを作っていくかという思いだと思います。ほかにも、入試の整備や、単位互換の問題、初等中等教育が11年という教育制度の違いなど、システム改善の問題もあります。

— 日本への留学生を増やすには？

最大の問題は、奨学金があるかどうかでしょう。それが留学フェアで一番聞かれまして、今まで日本は、ロシアへ顔を向いていませんでした。

トにしている、日本への憧れ、日本留学への意欲が感じられました。

— モスクワやサンクトペテルブルグとの違いは？

モスクワやサンクトペテルブルグも日本を近代国家、工業国家として見えていますし、昨年から本学へ提携校のモスクワ国際大学から留学生も来ていますが、距離的には極東と比べるとやはり遠い。学生にも、日本だけでなく、ヨーロッパや米国に行くという選択肢があります。

しかし極東ロシアの場合、日本がすぐ目の前にあるという感じですね。そんな印象の違いを受けました。

— 日本で、ハイポリ

最大の問題は、奨学金があるかどうかでしょう。それが留学フェアで一番聞かれまして、今まで日本は、ロシアへ顔を向いていませんでした。